



平成29年度

鳴門教育大学小学校英語教育センターポットラックセミナー第一弾

—新しい小学校外国語教育成功への秘訣

～外国語活動導入から教科化への流れの中で～



8月28日(月)、本学地域連携センターにおいて、平成29年度小学校英語教育センターポットラックセミナー『新しい小学校外国語教育成功への秘訣～外国語活動導入から教科化への流れの中で～』を開催しました。同セミナーは、食べ物を持ち寄って開くパーティーを意味する「ポットラック」を用いることで、参加者間で小学校外国語教育に関する経験や考え、課題や悩みなどを持ち寄り、共有することで小学校英語の課題を明確化することを目的としています。

本学では、平成17年度に小学校英語教育センターを設置し、小学校英語教育に関するカリキュラム開発、研修・支援プログラム開発等の取組を行っており、このセミナーはその事業の一環として開催しました。

セミナーでは、外国語活動導入時に旗振り役として尽力した前文部科学省教科調査官で大阪樟蔭女子大学教授の菅正隆先生のご講演に加えて、外国語活動創生期から長きにわたり学校現場で実践にご尽力された先生方から、これまでの取組についてご報告いただきました。

また、全参加者によるトークセッション「新学習指導要領成功への秘訣」では、今後の課題について活発な討論が交わされ、本セッションを通じて教科化への移行期に関わる課題が共有・明確化されました。

当日は、50人定員のところ、74人の方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

本学では、今後もポットラックセミナーを開催し、現場課題の発見と参加者間での情報共有を通じた問題解決を図っていききたいと思います。

多数のご参加ありがとうございました。

- ◆【本当の小学校外国語活動・外国語のルール、  
内容がわかる!!全てお伝えします】  
大阪樟蔭女子大学 教授 前文部科学省教科調査官  
菅 正隆 氏
- ◆【外国語教育が私に教えてくれたもの】  
徳島市福島小学校 教諭 竹内 陽子 氏
- ◆【挑戦の20代—外国語教育に魅せられて—】  
鳴門教育大学附属小学校 教諭 青山 祥子 氏
- ◆【転機は好機!】  
関西大学 初等部 教諭 梅本 龍多 氏
- ◆トークセッション【新学習指導要領成功への秘訣】



講演を行う  
菅 正隆 氏



会場の様子

2017年  
小学校英語教育学会  
(JES)  
学会賞

2017年度の小学校英語教育学会(JES)学会賞において畑江先生、段本先生が実践分野において学会賞を受賞しました。

実践分野 「小学校におけるアルファベット指導の再考—文字認知を高めるデジタル教材の開発と実践—」

畑江美佳 段本みのり

○推薦理由 アルファベットの書き順を歴史的に調べ、大文字から小文字への変化の過程を提示することで文字学習への興味・関心を高めるデジタル教材の開発・実践の紹介である。実証的検証の取り組みもなされ、今後の更なる研究の広がり期待される。新学習指導要領に応じた文字指導の在り方に対する多角的なアプローチを促す実践例としても参考になるはずである。



学会長 萬谷隆一氏より  
表彰を受ける畑江准教授



## 小・中英語教育研修への講師派遣



**A** 平成29年8月1日（火）、鳥取県西伯郡小教研会員研修会にて、参加者約110名を対象に「外国語活動はこう変わる ～研究開発学校での取組を通して～」をテーマに講話並びにワークショップを行いました。翌2日（水）には、同郡小学校外国語活動担当者（参加者約25名）を対象に、「次期学習指導要領の実施に向けて」と題して、授業づくりや評価等について、活動も交えながらより具体的な研修を行いました。

連日の研修となりましたが、会場いっばいの熱心な西伯郡の先生方と、次期学習指導要領実施の方向性ととも、「今何をすべきか」について共有し合うことができました。

参加者からは「外国語が教科となり、どのように変わっていくのがよく分かりました」「やらされるのではなく、子どもたちがやりたくなる外国語の姿を見せていただき本当にありがとうございました」「学校を挙げて取り組んでいくことがよりよい授業づくりにつながることを再確認できました」などの声をいただきました。（佐藤）



外国語活動担当者研修会の様子（2日）



**B** 今年9月に徳島県内の公立小学校において外国語教育に関する校内研修の講師を担当させていただきました。研修のテーマは「小学校外国語教育における評価と教室英語」で、次のような研修内容を計画しました。

- (1) 次期小学校学習指導要領にもとづく外国語活動ならびに外国語の学習評価の方向性を理解する。
- (2) パフォーマンス評価を体験することを通して、外国語活動および外国語の評価に求められるものについて考える。
- (3) 教室英語トレーニングを通して、自分自身の教室英語力を育成するための方向性を考える。

結果的に(3)の教室英語力に関する演習の時間をとることができませんでしたが、まず(1)については、今年3月に改訂された新しい小学校学習指導要領における外国語活動と外国語の目標と要点とともに、今後の評価のあり方について現時点で公表されている範囲内でお話ししました。そして、(2)については、特に教科化後の外国語の評価のあり方を考えることを目的に、パフォーマンス評価を例に、「話すこと」に関する評価演習を行いました。具体的には、参加された先生方に、児童が英語でALTと簡単な英会話をしている映像を数人分視聴していただき、児童の何を評価すべきかを検討する時間をもちました。その話し合いのなかで、私は、元高校英語教員だったこともあり、評価にあたって児童の発話の正確さや流暢さに意識が向きがちである一方で、研修に参加されていた先生方は、児童が伝えようとする姿勢や気持ちを大切にされていると感じました。

私自身、新しい学習指導要領、特に小学校高学年における教科としての外国語の目標や要点を理解したつもりでございましたが、外国語活動で育ててこられた児童の英語に向かう姿勢や気持ちよりも、英語の知識や技能面の評価を強調し過ぎ、研修に参加されていた先生方を戸惑わせてしまったのではないかと反省しました。そして、教科としての外国語は、やはりコミュニケーションを体験的に学ぶ外国語活動を基盤とし、それと連動するかたちで行うべきということを再認識させられました。評価の具体的なあり方については、今後、政府による方針や学校現場における具体的な取り組みをふまえて議論をしていく必要があると考えますが、小学校における外国語の評価は、教科化後も、外国語活動を通して育成されてきたコミュニケーションを図る「素地」を基盤に、それをさらに「基礎」へと育むことのできる評価のあり方でなければならないことを学ばせていただきました。

小学校外国語教育について、私自身、もっと理解を深めていかなければならないとともに、小学校の先生方と共に学んでいくという姿勢の大切さを実感する機会となりました。お忙しい中、研修に参加してくださった先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。（山森）

